

心のふるさと白川郷。



平成7年12月9日、ユネスコの世界遺産に登録された白川村荻町の合掌造り集落。その代表的な民家「和田家」は同年、国の重要文化財にも指定されています。厳しい地形と気候風土のなかで培われた特徴的な生活や生産活動、そしてわが国における大型木造住宅の集落の典型を示す白川郷のたたずまいは今、心の故郷として人類共有のかけがえのない財産となったのです。



入館のご案内／午前9時～午後5時 大人300円・小学生150円

## 和田家

岐阜県大野郡白川村大字荻町字山越997番  
電話／05769-6-1058



国指定重要文化財合掌造り

和田家

時を超えて、つなぐもの。



建物を高層にして両妻に明かり窓を設けた合掌びとの知恵。生業の維持のための空間は、階下のいりりから立ちのぼる暖気により適温が保たれる。



オクノテイ



恒久的な美しさを今に残す生活用具の数々。モノへの愛着を失いがちな現代、生命感さえ秘めた当時の文化を尙うことができる。その一つひとつに人々の心が通っているように思える。



黒光りする屋根裏の艶は、何百年もの歲月と暮らしの重みを物語る。ここには風雪に耐えてきた人々の、静かな祈りが秘められ、懸命な営みの日々が眠っている。

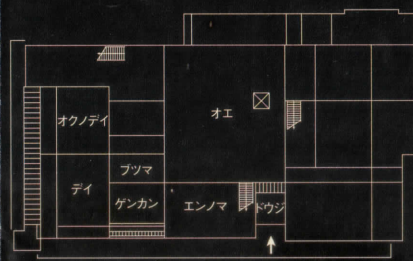
人はいつかこの風景の未来へ帰りたい。



誰もが、心に故郷を抱いています。それは、生きていくことの原点かもしれません。季節の移ろいや風の囁き。大地の息吹や生命の開花。郷愁や感傷だけではない豊かな営みがあるから、人はその風景に、限りない愛しさを覚える。これまでも、これから、いつまでも。ここには時の流れが息づく、永遠の未来があります。

◆和田家にたどる昔日

白川村の合掌造り集落で最大の規模を誇る和田家住宅は、式台付きの玄関など格式の高い造りを持ち、江戸初期と見られる建築文化の粋を今日に偲ばせています。和田家は天正元年(1573)以来、代々弥右衛門の名を継ぎながら江戸時代には庄屋や番所役人を務めるとともに、白川郷の重要な現金収入源であった塩硝の取引によって栄えました。明治21年には市町村制の公布により白川村が誕生。和田弥右衛門は初代の村長に選ばれています。



◆和田家住宅の遺構

荻町合掌集落の北部に位置する和田家住宅は、西に面する主屋を中心に前方右手に便所、後方左手に土蔵を構えています。屋敷構として石垣や防風林を、周囲設備には消雪用の石組溝や池を備え、土壁や庭園が当時の裕福ぶりをうかがわせます。主屋は一重・三階の大型合掌造り民家で、いりりを設けた大広間や居間、仏間や客間、寝間などがあります。寝室の上部には中二階があり、民具などから当時の生活様式が偲べれます。